

SAMUEL ZUIDER



2020年1月に「ロータリーは機会の扉を開く」という国際ロータリー（R I）会長テーマを発表し、ロータリーには変化が必要だと話した際、これほど早く変化の波が押し寄せるとは思ってもみませんでした。しかし、私は昔から変化を機会として捉えてきました。今年度、私たちはロータリーの在り方を改めて考える新たな機会を得ました。長年、私たちはロータリーを柔軟で適応力ある組織にしようと議論を重ねてきましたが、今回は誰もが試み、そして成功を取めたのです。今やどのクラブでもオンライン会合は取り入れられ、世界中から例会にゲストを招いています。

世界中のロータリー家族と知り合うのを何より楽しみにしている妻のスザンヌと私にとって、皆さんと直接顔を合わせられなかったこの1年は寂しいものでした。一方で、新しいロータリー体験が得られた年となりました。世界中をバーチャルで旅し、こうならなければ出会えなかったであろう何千人もの会員と出会えました。エバンストンの会長室にいらなくても会長として任務を果たし、しかも旅費の削減にもなる新しい方法が見つかりました。

2020 - 21年度に私たちが出会ったのは、機転が利き、適応性が高く、創造的なロータリーの形でした。次の段階は、新型コロナ以前の様式に逆戻りすることではありません。先に進まなければならないのです。オンライン例会形式を取り入れる、新しい活動方法や機会を提供するために、学んだことを生かしていきましょう。

クラブの力を保つためには、あらゆるレベルでさらなる若さと多様性が必要です。多様性が意味するものは地域により異なりますが、ぜひさまざまなバックグラウンドの人々を会員として迎え入れてください。女性会員を増やし、彼女たちの役割を強化することも一つ

の手だてです。

現在、ローターアクトクラブを対等の存在として見なすロータリアンが多くなってきたことは非常に喜ばしいことです。ローターアクトクラブをあらゆる活動に招き入れ、今後もこの認識を広めていきましょう。若いリーダーに連携を働き掛け、新しいアプローチに取り組んでいきましょう。

ロータリーが、新型コロナウイルスの公

平な配布への呼び掛けや、デマとの闘いなどを通じて予防接種キャンペーンを支援し、パンデミックと闘っていることを心から誇りに思います。一方、ポリオ根絶に向けて今後も全力で取り組まなくてはなりません。そんな今、環境という新しい重点分野に取り組む機会も誕生しました。

「ロータリーは機会の扉を開く」と初めて宣言したあの日と今日では、世界は大きく異なります。この1年でロータリーがこれほど大きく前進したことを誇りに思いましょう。そして今後も前進を続けていく中で、クラブやクラブの仲間たちを大切にしていきたいと思います。ロータリーの命であり、さらなる繁栄をもたらしてくれる大切な存在です。

この特別な年度、「超我の奉仕」の新たな意味を模索したこの年に、ロータリーに奉仕する機会が得られたことを妻と共に感謝しています。ロータリーは、理念を実践する人々の集まりだと思っています。この苦難の時に、奉仕というものをこれまで以上に重視しなければならぬことは明らかです。今こそ、超我の奉仕がロータリアンにとって何を意味するかを世界に示す機会なのです。

世界を変えるために、私たちができる数多くの機会が今後も控えています。共に手を伸ばし、さらなる高みに至るために、機会の扉を開いていきましょう。扉を開いて新しい考えを受け入れれば、頭も心も開かれていくものです。私たちの全ての行動がどこかの誰かに機会をもたらすことをどうかお忘れなく。

## HOLGER KNAACK

2020-21年度 国際ロータリー（R I）会長

ロータリーの友  
Home Page

原文（英語）はこちらから [www.rotary-no-tomo.jp](http://www.rotary-no-tomo.jp)

# PRESIDENT'S MESSAGE